

令和5年11月1日発行

大河原農業改良普及センターだより

# 麦わらぼうし



【撮影：角田市 令和5年7月13日】

## 仙南地域における「だて正夢」 生産拡大への取組

県では、みやぎ米ブランド化戦略の取組として「だて正夢」の生産拡大を推進しています。「だて正夢」の品質を高め、収量を安定化させる事を目標に、当普及センターでは地域栽培塾を毎年開催することで、農家の皆様の技術向上をサポートしています。



【だて正夢のHPはこちら】

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます、応援します。宮城の農業普及。



## 令和5年度 普及センター重点課題の取組

### No. 1 新たな担い手の確保・育成と女性活躍支援

農業の担い手が高齢化する中、新規就農者等の新たな担い手の確保や地域農業を支える女性の活躍が重要となっています。

普及センターでは、今年度、新たに「女性農業者等キャリアアップ講座」を開講し、女性農業者や若手農業者の資質向上と農業者間のネットワークづくりを進めています。

8月25日に開催した講座では、山元町の株式会社一蓐一笑を会場に、施設見学と「働きやすい職場づくり」をテーマとした講話を代表取締役から行っていただきました。11月の講座では、情報発信の能力向上を目指し、魅力を伝える写真の撮り方とパンフレットづくりを行う予定です。



【8月25日に山元町で開催した講座の様子】

### No. 2 地域を守る集落営農組織の確立を目指して

仙南地域では「地域計画」の作成や、農地整備事業への取組により、地域の担い手の選定と農地の集積・集約化の動きが加速しています。普及センターでは地域の農地を担う新たな土地利用型農業法人の設立を促進し、また、設立法人の経営安定化について支援を行っています。

支援対象の1つである柴田町の富上地区では、農事組合法人の設立が計画されており、普及センターでは、県事業「地域を守る、集落営農モデル支援事業」を活用し、民間専門家がコーディネーターを務める形で話し合いを進め、合意形成に至ったものは全て明文化する手法で法人化を目指しています。

### No. 3 園芸振興を牽引する重点園芸作物の生産推進(いちご、ブロッコリー、生食用ぶどう)

仙南地域の特色ある園芸産地を目指し、普及センターでは重点園芸作物としていちごとブロッコリー、生食用ぶどうの生産振興に取り組んでいます。

いちごの高設栽培に取り組む生産者は、栽培経験が浅いため、各々のシステムに応じたきめ細かな技術支援を行っています。また、水田転換作物として作付を推進しているブロッコリーは、講習会や巡回等を通して病害虫防除等を適期に実施するよう呼び掛けています。

さらに、近年は管内の新たな果樹品目として、育苗用ハウス等を活用した生食用ぶどうの栽培が増加しています。生産者の方々は初心者からベテランまで様々なため、講習会等を通じて、栽培技術の習得を支援しています。



【ぶどうの摘粒方法を学ぶ生産者】

## No. 4 耕畜連携の推進

飼料用作物の作付面積が増加する中、飼料用米専用品種や飼料用稲への作付転換のニーズが高まっています。そこで、普及センターでは、多収品種「ふくひびき」導入のための栽培管理や種子生産に関する技術支援のための現地検討会、また、飼料用稲「リーフスター」の生産と利用定着支援のための現地検討会の開催を通じて、耕畜連携の推進に取り組んでいます。

7月19日に開催した「ふくひびき」の現地検討会では、葉耳間長や幼穂長から出穂時期を予測し、適切な刈取り時期について農家の皆様と検討を行いました。

畜産堆肥活用の推進については、堆肥センターの稼働状況等について聞き取り調査を実施し、堆肥の活用推進についても検討しています。

飼料用稲「リーフスター」については、6月8日、7月5日に現地検討会を開催し、耕種農家に情報提供等を行いました。



【8/22 撮影 多収品種「ふくひびき」】

### トピックス

### 村田町におけるとうもろこし生産振興

村田町では、地域特産品として「味来」等に代表されるとうもろこしの生産が盛んに行われています。毎年出荷の時期になると、とうもろこしの購入を目的に、町内外からたくさんの方々が訪れます。

普及センターでは、その需要に応えられるよう更なる生産量の拡大を図るため、町や道の駅と連携し、とうもろこしの生産振興に取り組んでいます。道の駅直売所の生産出荷団体「村田ファームズ」を対象にした研修会では、生産技術向上や新規作付の誘導、販売促進に関すること等様々な支援を行っています。研修会参加者からは「他の生産者と意見交換できる良い機会となった」との声をいただきました。また、空いている水稻育苗ハウス等を活用し、10月以降も収穫を行える抑制栽培による出荷期の拡大に向けた支援にも取り組んできました。普及センターでは、とうもろこし生産量拡大を目指して引き続き支援を行います。



【とうもろこし品種「味来」】



【現地研修会の様子】

## お知らせと話題

### 簿記の研修会に講師として参加しました

令和5年6月6日から6月27日までの各週（計4回）、角田市農業振興公社等を会場に、角田市農業青色申告会主催で開催された「農業簿記勉強会」に、講師として当センター職員が参加しました。

初めて簿記に取り組む方から長年青色申告をしている方まで合計9人が受講し、大変熱心に取り組まれました。受講生からは「農業簿記の仕組みを再確認できた」といった声が聞かれました。

当センターでは、今後も農業経営の改善に向け、支援を続けてまいります。



【農業簿記勉強会】

### 農薬情報

農林水産省が公開している「農薬登録情報提供システム」へのリンクはこちらです。



出典：農林水産省Webサイト  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

なお、農薬を使用する際は、容器のラベルを十分に確認の上、使用基準を守って適切に利用しましょう。

### だて正夢の栽培塾を開催しました

管内における「だて正夢」の高品質・収量安定化に向け、7月13日に「だて正夢地域栽培塾」を角田市及び蔵王町で開催しました。地域栽培塾では、今年の「だて正夢」の生育状況について説明したほか、実証水田の幼穂長を確認し、追肥時期の判断や出穂期の予想を行いました。

秋には、おいしい「だて正夢」を消費者の皆様へ届けられるよう、今後も生産者と共に生育状況を確認しながら、栽培技術のサポートを図ってまいります。



【だて正夢地域栽培塾】

### 青年農業士及び指導農業士の認定

令和5年6月6日にハーネル仙台で農業士認定式が開催され、大河原管内では、新たに2の方が農業士に認定されました。

青年農業士 菊地 武士 さん(丸森町 酪農)

指導農業士 大内 喜博 さん(丸森町 水稻)

※大内さんは、青年農業士として9年間活動されました。

仙南農業士会は、会員28人（うち青年農業士10人、指導農業士18人）となっています。



【令和5年度農業士認定式】

発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)  
 電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138  
 e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp  
 H P <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

